

北海道及び北海道園藝會共催の

菊花品評會を觀て

田 郎
石 文

札幌の今井百貨店における菊花品評會が回を重ねて、ここに三十九回を数うるに至つたことは、誠に喜びに堪えぬところであります。この審査については、審査委員長の柄内先生から精しく報告があつたので、それを掲載することにし、私はこの品評會において觀て感じたことを少々述べることにお返しします。終戦後昨年あたりまでは、食糧増産等で菊を栽培する者が少なかつたのでありますが、食糧の安定を得た今日、各地に菊の栽培が盛んになり、その品評會が催さるようになったことは、われわれ園芸家として喜んでいるところであります。本年第三十九回の品評會の菊の出品点数は戦前即ち昭和十五、六年頃に比すれば数に倍は、おいてはまだまだ少ないのでありますが、その質においては、大菊、小菊ともその栽培技術が進歩したと同時に優秀なるものが数多く出品されておつたと思ふ。

普通の大輪三本仕立は全部の花が総括的に例年より多少良くできておつたように思われた。中でも首席一等賞であり農林大臣賞の光韻、小坂善夫氏のもの、花の大きさや走弁の勢、葉の色沢姿勢等申し分なきでできてあつた。一等に入賞した春日の浦（佐藤弥市氏）のもの、大東洋、筒井賢氏のものなどは特によくできたものといえよう。しかし大菊出品物中には肥料が多少効き過ぎて、匙弁に咲くところが半管弁になつて咲いているものも多少見受けられたので肥料の施肥には特に注意することが必要である。

小菊懸崖の競枝花、瑞光は筒井賢氏のもの、一等賞に入賞したものであるが、懸崖菊として新思考の形を作出せられ誠に見事のものであつた。普通一般小菊懸崖作りでは吉田時雄氏の天祥が首席一等に入賞したが、あの大作がしなも枝の配置もよく懸崖菊としての形を遺憾なく發揮したことは誠に喜ばしき次第である。

つぎに開発友秋氏の天祥も形は小作りであつたが半懸崖として新思考の形を作出され見事のものであつた。

盆栽菊は美唄市の田村忠雄氏の出品秋田錦は一株五幹立でも老木が一株から五幹出ている様は何ともいわれぬ見事作品であつた。その他田村氏の鳥海、机上の老人等いづれも見事な作で大友栄治氏の石付蛇の目もなかなか見事な作であつた。

以上申し述べたように本年は近年になき



菊花品評會々場（於札幌今井百貨店）

良き菊のできばえであつたが、明年は四十年でもあり一層栽培に注意して優良品を出品さるるよう希望するものであります。

第三十九回菊花品評會審査報告

① 本年は春以来天候極めて不順に経過したが、まず五月初旬には稀に見る暴風に見舞われ、次で六、七の両月には早魃と曇天、更に低温がつづいた。七月末より雨期に至つて水湿の不足は解消されたが、半面低温は更につづいて、暑気の至るべき七、八月にも遂に暑さを覚えた日が殆どない程の低温が継続、九月の末二十六日には稀に見る強烈な颱風十五号の来襲を受けて、各地各様の惨害を惹起したと共に、菊にも大小の被害のあつたことは察するに余りある所である。その後十月に入つてその上旬には冬の早来を思わせるような寒冷の朝夕を過ぎたが、中旬以後やや平年より温かな日を過すこともあり、十一月を迎えた次第である。かくの如き不順なる天候の中にあつて、菊を作られることは多大なる労苦のあつた事と思うが、それにもかかわらず多数の優秀なる出品をここ十数年來始めて見る広さの会場に、溢るるばかりに展げ得た事は誠に喜びに堪えぬ次第である。

② 本年の出品物の点数及び審査の結果は別表の如くである。

③ 競枝花、昇仙橋は十二点の出品を見たがこの品種は、花が一般に退化して昔日の如き偉容を見ることができなくなつたことは、この品種のため誠に惜しむべきであるが、その中であつて棚村氏のもの、その花は小形乍ら掴み走り共によく整い、花の色も十分であり葉も良好であつた。銀水は出品点数六点にすぎず、その中これも棚村氏のは花の掴みも走りも共に良好で昇仙橋と共に、同氏のもは他を抜いていた。銀水の入賞品の中三等に入賞の加賀谷氏のもは花は入賞に値していたが葉に病斑を多く見た。頗る遺憾とする所である。小菊の瑞光は十三点の出品を見たが筒井氏のもは姿態佳良しかも斬新な形のものであつた。

(別表)

出品	点数	一等	二等	三等	合計
大菊競技花銀水	六	一	一	一	三
大菊競技花昇仙橋	二	一	一	一	三
小菊競技花瑞光	三	一	一	一	三
大菊三本仕立	九	一	一	一	三
大菊数仕立	七	一	一	一	三
大菊初花	二	一	一	一	三
大菊実生三本仕立	三	一	一	一	三
大菊実生切花	二	一	一	一	三
小菊懸崖仕立	八	一	一	一	三
小菊盆裁仕立	三	一	一	一	三
合計	二九	一〇	一〇	一〇	三〇

④ 大菊三本仕立、本年は天候不順の割合に良好な花並びに葉振りのものを見ることができたが、中には葉に病斑を生じたもの、あるいは葉斑を残したもの、あるいは落葉の甚しいもの、また肥料過多による花弁の悪変、例えば平弁となるべきものの半管化など種々故障を見出したがとにかく葉花共に見るべきもの多かつたことは誠に喜ばしかった。九〇点の出品の中から小坂氏の光韻を一等賞主席に選出したがこの品は草姿、花の掴み走り共に良好であった。ただし葉に葉斑が僅にあつた事は、稍おしむべきである。なお成績抜群ということで農林大臣賞を授与することとした。その外春日の浦(佐藤氏)激流(菅野氏)大東洋(筒井氏)太平の輝(牧田氏)南浜(中川氏)白高須の誉(住広氏)千鳥の舞(小関氏)花の奥山(皆川氏)の各品を一等入賞せしめた。

⑤ 大菊数仕立は本年七点を数えたが一等に値するものなく、僅に二等二点、三等一点を受賞せしめたにすぎなかつた。

⑥ 大菊の実生は三本立三点、切花二点

であるが、これは大作りであるが故の入賞ではなく、全体の形態上の調和がよくとれていることによる入賞であつて、決して大作りを奨励して居るものではない。これを特に強調しておき度い。また開発氏の天祥も形新しくまとまり良く、菅原氏の乙女の友は小形懸崖中の優秀品で形は必ずしも新しくはないが、さりとして旧套陳腐のものでもない。この外、近藤氏の福寿星を一等に入賞せしめた。

⑧ 盆栽作りはその出品三三点であつたが、本年は頗る秀抜なる佳品を見出し得たが中にはいささか苦言を呈するの要ありと認められるものもあつた。美頰の田村氏の秋田錦の五幹立のものは円形の浅鉢に岩山を用いることなく植え付けられ形態頗る酒脱軽妙

の出品を見たのみで頗る不振であつたが、その中三本立で一点、切花で一点の優秀なものを見たことは割合に粒よりのもののみ出品があつたと見てよいであらう。

⑦ 小菊懸崖作り本年の出品は八三点を数えたが、その姿態は実には千変万化を極め頗る古い型のものより斬新の型に至るまで各種のものを数え甚だ見るべきものがあつた。中で吉田氏の天祥は型が頗る斬新であり枝の配置、花の開花度なども申分ないもので本年の懸崖作り中の逸品として一等賞首席に選んだ次第である。その上この品は場内の懸崖作り中第一の大作り

を極め、また一面甚だ気品の高いものであつたが、同氏の出品には佳品が頗る多く、長方の浅い盆に植えられた鳥海の袋吹のもの及び楕円の盆に植込んだ双幹の机上老人はともに優秀なるものと認めこれを推賞した。また大友氏の蛇の目は石付の佳品としてこれまた一等に入賞せしめた。盆栽作りは樹木の盆栽と同様気品高く且つ野趣に富むことが必要であり、また盆中に岩石を添える場合にはあくまでも菊の盆栽である以上、岩石の形容に菊が庄されて菊が添物であるような観を呈せしむることのないよう



新思考の懸崖作りと、大菊千鳥の翁(左)母戀千鳥(右)

十分に注意すべきであるが、出品された物の中には菊と石と鉢との間の釣合の良好ならぬものも遺憾ながらなしとはいへなかつた。また菊の如き草本を盆栽仕立とするのであるから、木を添えても差支えないようにも思えるが、盆栽である以上石を添えるのが本来であり、木を添えるものは石を用いるものより栽培数等容易であつて余程優秀のものない限り入賞圏に入ることは困難であらう。

⑨ 以上によりここに会頭より褒賞の授与あらむことを望むものである。なお明年はこの菊花品評会の創始以来回を重ねること正に四十回に及ぶこととなり、各種の行事が盛大に行われることと思ふが、協賛会員諸君におかれても本年に倍する熱意を以て事に当られ、いよいよ優秀なる菊花を益々多数出品されて、本道のみならず、本邦園芸の発展のために寄与されるよう幾重にも希望する次第である。

(北海道大学助教・植物園主任)

會員の皆様へ

雪たね同友会では會員各位に會員証を發行しておりますが、整理の都合で遅延したことをお詫び申し上げます。今後種苗の御注文その他の連絡には必ずこの會員番号を御記入の上お申し越し下さるようお願い致します。

牧草と園藝

第二卷第十二号
定価三十円 送料四円
昭和二十九年十二月一日発行
(毎月一回一日発行)

編集兼 五十嵐 清
印刷所 三田 徳 光
発行所 札幌 那 豊 平 町 美 園
雪印種苗株式會社
電話 小樽一八二四八番